事業番号	191

平成27年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《雨水対策事業》								担当部	都市建設部
	会計区分	一般会計			事業類型	実施計画事業				担当課	河川課
	事業期間	平成12年度以前		～		平成31年度以降				担当係	河川係
	総合計画分野別計画 主目的	6 都市基盤		26 河川・水路		2 河川への雨水流出を抑制します					
	総合計画分野別計画 副目的									実施計画対象	○
	予算区分	款	8	項	3	目	3	大	3	中	
	根拠法令・個別計画	特定都市河川浸水被害対策法、新川流域水害対策計画									
	目的（対象をどの様な状態にするのか）	河川改修には長い年月が必要であるため、総合治水の視点から、雨水を下流に排除するだけでなく、その場に貯めることで流出の抑制をし、浸水被害を軽減する。									
	内容（手段）	◆26年度実施内容 ・26年度から27年度にかけて早苗公園に雨水貯留施設を設置するための工事を実施。 ◆26年度直接経費の内訳 【工事請負】 ・早苗公園雨水貯留施設整備事業 2件 地下貯留施設 約1,500m3 （工事費：100,416千円） 【財源内訳】 ・社会資本整備総合交付金(補助率1/3) 20,160千円 ◆27年度直接経費の内訳 【委託業務】 ・雨水貯留施設測量業務 双葉公園（委託料：7,000千円） ・西部地区雨水対策基本計画策定業務（委託料：9,000千円） ※雨水対策事業のうち、雨水貯留施設設置助成事業、浸水防止塀設置助成事業を除く									
	受益者負担	無									

				単位	H24決算額	H25決算額	H26決算額	H27予算額
コスト	費用	直接経費		千円	62,845	64,175	100,416	16,000
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,578	1,578	1,578	1,578
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	64,423	65,753	101,994	17,578
		対前年比		%		102.0	155.1	17.2
	財源	一般財源		千円	26,773	16,953	81,834	17,578
		国・県支出金		千円	16,050	48,800	20,160	0
		その他財源		千円	21,600	0	0	0

事業番号	191

業績	活動指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	施設設置件数	件	目標	2	2	0	1
			実績	2	2	0	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	雨水貯留量	㎥	目標	1,502	780	0	1,519
			実績	1,502	787	0	
	公共施設の総雨水貯留量	㎥	目標	246,200	246,980	246,980	248,499
			実績	246,223	247,010	246,980	

事業の自己評価				
平成26年度の実施結果	事業の達成状況	平成26年度から平成27年度にかけて、早苗公園に雨水貯留施設の整備を行っており、進捗は順調である。		
	事業実施における課題	工事施工中は、公園の利用ができなくなる。公共用地の利用を制限する場合には、周辺住民に十分な周知が必要である。		
	事業を縮小・廃止したときの影響	急激な都市化に伴い発生する大雨対策として、改修までにかなりの期間を要する河川整備に代わり、必要な箇所に設置できる当該施設は、他に類似する事業がない事から、廃止すると治水行政の一部を果たせなくなる。		
平成27年度の改善内容	27年度における事業の改善・見直し内容（新規追加事項、廃止・削減事項等）	浸水被害の絶えない小牧西部地区について、雨水対策基本計画の策定および、双葉公園に貯留施設設置のための測量設計を行う。		
平成28年度の事業の方向性	方向性の判定	維　持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの（対象や手段を見直す場合も含む）	
	判定理由	治水事業の一部として雨水貯留施設が必要な箇所はまだ相当数あると思われるため、継続的に事業を実施する必要がある。		
	28年度以降の改善案	市街地において、公園・学校等の公共施設の外、道路用地内の側溝や地下等も利用して雨水貯留浸透施設等設置を計画し、大雨によるピーク雨量を貯水し、浸水被害の軽減を目指す。また、地元区からの意見を伺うなど雨水貯留施設後の効果について検証していく。		

二次評価	方向性の判定	判　定　理　由
	維　持	一次評価のとおり。